

# 人工心肺非使用冠動脈バイパス術後の出血量と トロンボエラストメトリーとの関連性について

## 1. 研究目的

周術期において出血は重大な合併症の原因となり、死亡率増加や入院期間延長などに関連することが分かっていますが予測することは困難です。

トロンボエラストメトリーは、全血の入ったカップをホルダーにセットし、カップ中央にピンを沈めて血液凝固の程度を測定します。ピンがカップ内で回転し、検体とピンのあいだにズリ応力が加わるので、凝固反応が進みフィブリンによって血液の粘稠度が増すにつれてピンにかかる抵抗が増します。抵抗の度合いを、横軸が時間、縦軸が血餅の強度としたグラフに表します。そして、ベッドサイドでグラフの振幅の大きさを血餅凝固能・線溶系・血小板機能を評価できるため、適切な薬剤投与や輸血管理が可能であり、出血量の減少や血液製剤の使用頻度の低下が報告されています。

今回、人工心肺非使用冠動脈バイパス術後の ICU 入室患者におけるトロンボエラストメトリーと術後出血量との関連性を後ろ向きに検討し、出血量、輸血量の予測に活用する資料とすることを目的とします。

## 2. 対象

福岡大学において 2012 年 3 月から 2016 年 3 月の間に全身麻酔下に人工心肺非使用冠動脈バイパス術を受けた患者さんで、術後に外科系集中治療室 (SICU) に入室した患者さんのうち 40 名を対象にします。

対象となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡下さい。

## 3. 研究期間

研究を行なう期間承認日より 2018 年 3 月 31 日まで

## 4. 研究内容

全身麻酔下に人工心肺非使用冠動脈バイパス術を受けられた患者さんの

麻酔記録、カルテを見直し、出血量に関する項目を調査します(凝固検査値、トロンボエラストメトリーの各値、患者背景、ICUでの出血量)。得られたデータから、ICUでの出血量を解析することで出血量の予測や輸血量を減らすための資料とします。

この研究は、後ろ向き研究であり、対象患者さんに生じる負担ならびに予測されるリスクはありません。

## 5. 個人情報等の保護

研究責任者と研究者は個人情報保護法を厳守し、患者さんの個人情報の保護に努めます。研究対象者のデータは匿名化、暗号化することで、個人が特定されることを防止します。安全管理のため、インターネットに接続していないパソコンに個人情報を保護します。

研究終了後、学会発表および学術誌への論文投稿を行う際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

## 6. 研究期間

実施機関：福岡大学病院

連絡先：〒814-0180 福岡県福岡市城南区七隈 7-45-1

電話：092-801-1011（代表）

FAX：092-862-8200

担当者：富永健二

研究責任者：福岡大学医学部麻酔科学

教授 山浦 健

研究者：福岡大学医学部麻酔科学

助教 富永健二